

NORN oven series

ノルン オープンシリーズ

NORN oven # 5210

NORN soapstone+oven # 5218

工事説明書

工事される方へのお願い

- 工事の前に、この「工事説明書」をよくお読みのうえ正しく工事を行ってください。この「工事説明書」は、工事終了後に必ずお客様へお渡しください。
- 工事説明書に記載された方法以外の工事・分解等を行われた場合に伴う、ストーブおよび建築の不具合・破損については保証を致しかねますのでご注意ください。
- 施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工上に起因する不具合が生じた場合は、貴店の保証規定によって修理いただくようお願いいたします。
- 建築物への開口作業や支持金具を固定する下地等に関しては建築業者とよくお打合せの上、行ってください。
- 工事に従事する方は、労働安全衛生規則にしたがってください。設置場所の状況や機器（重さや形状）、煙突設置の高所作業時等で、けがをされないように十分注意してください。
- 据え付け完了後、P20チェックリストに基づいて再確認を行ってください。
- 後の保守点検に必要な情報として設置図面や使用した部材の情報は設置記録として保管してください。



目次

1. 安全のために必ずお守りください	2
2. 開梱	
開梱の際の注意	8
付属品の確認	8
パレットの外し方	8
3. ストーブの移動方法	
作業するにあたり	9
燃焼室の各パネルを外す（各機種共）	9
スチール仕様の天板の脱着	9
ソープストーン仕様の各ソープストーン脱着	9
各ソープストーンの脱着方法	10
4. 本体の設置	
施工上の注意事項	15
ストーブの水平調整	16
ストーブの地震対策	16
ストーブにスターターを固定する	17
給気用ダクトの取付け方法	18
5. 煙突の設置	19
6. チェックリスト	20
7. 本体寸法図	21

1 安全のために必ずお守りください ⚙️⚙️

表示について

 危険	作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の製品の不具合によって使用者が、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の製品の不具合によって使用者が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 一般的な禁止	この表示は、「禁止」されている内容です。
 一般的な指示	この表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

危険



お客様による据え付け移設工事の厳禁

禁止

据え付けや移設工事は販売店、または専門業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。
設置については本書の内容の他、火災予防条例、建築基準法などの法令の基準があります。
これらに従わない場合、火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。



屋内排気禁止

禁止

屋内に排気すると煙が屋内に充満して危険です。必ず屋外に排気してください。

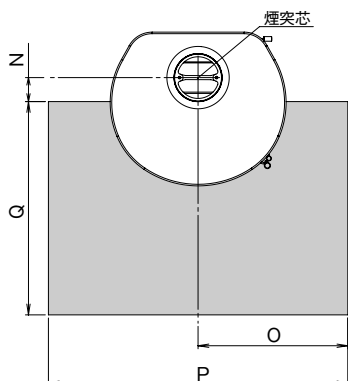


設置の床を必ず保護する（炉台）

指示

ストーブを設置する床は、ストーブの重量に長期間耐えられる水平かつ、安定している場所を選択した上で、
図1の範囲を不燃材料で有効に保護してください。
床の保護には不燃材料（金属を含む）で施工してください。
レンガやタイルを用いる場合は隙間が生じないように目地をモルタルでつめてください。
床の保護を怠ると、燃えた灰の落下や輻射熱で火災の原因になります。

図1 床の保護範囲



(単位:mm)

モデル名	N	側面O	幅P	奥行きQ
ノルン オープン	最大69	452以上	904以上	691以上
ノルン ソープストーン + オープン	最大 71	485 以上	970 以上	691以上

N=床保護後端から煙突芯まで。

警告



禁止

次の場所には据え付けない

- ※火災や予想しない事故の原因になります。
- ・ 水平でない場所、不安定な場所
 - ・ ストープの上に物が落下する場所
 - ・ 可燃性ガスや液体を保管、または溜まる場所
 - ・ 乾燥室、温室、飼育室など、人がいない場所
 - ・ 避難口など、避難の支障となる場所
 - ・ 付近に燃えやすい物がある場所
 - ・ ほこりや湿気が多い場所
 - ・ 化学薬品を使用する場所
 - ・ 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取り入れ口のない場所。または換気の行えない場所



指示

ストーブの燃焼に必要な空気量を確保する

- ・ ストープを設置する部屋の壁等、ストーブの燃焼に必要な空気量を不自由なく取込めるように屋外へ直接通じる給気口を設けてください。
- ・ 屋外側の給気口の端部はゴミや雪などでストーブの燃焼が妨げられない場所に設けてください。
- ・ ストープを据え付ける部屋の気密が高い場合で、部屋の換気設備やストーブの他に空気を必要とする機器により、ストーブが燃焼に必要な空気量を十分に取込めないと、不完全燃焼がおこる他、一酸化炭素を含んだ煙が部屋に漏れて、生命に危険をおよぼすおそれがあります。



禁止

換気を行えない場所には設置しない

換気を行えない場所に設置するのはおやめください。屋内に煙が溜まり危険です。



禁止

家具、カーテン、寝具、薪など可燃物近接禁止

家具、カーテン、寝具、薪など、燃えやすいものをストーブや煙突に近づけないでください。ストーブの熱気で発火して火災の原因になります。

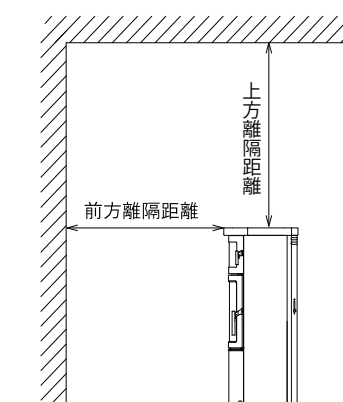


指示

可燃物との距離を離す

ストーブ、および煙突から周囲の壁・天井・柱などの可燃物までは、火災予防上の安全な離隔距離を設けてください。火災の原因になります。

図2 ストープ前方・上方から
可燃物までの離隔距離



前方離隔距離

(単位:mm)

モデル名	メーカー指示	告示第 225 号
ノルン オープン	1050	1869
ノルン ソープストーン +オープン	1050	1994

上方離隔距離

(単位:mm)

モデル名	メーカー指示	告示第 225 号
ノルン オープン	850	995
ノルン ソープストーン +オープン	850	1078

安全のために



警告



ストーブから周囲の可燃物まで安全な距離を離す

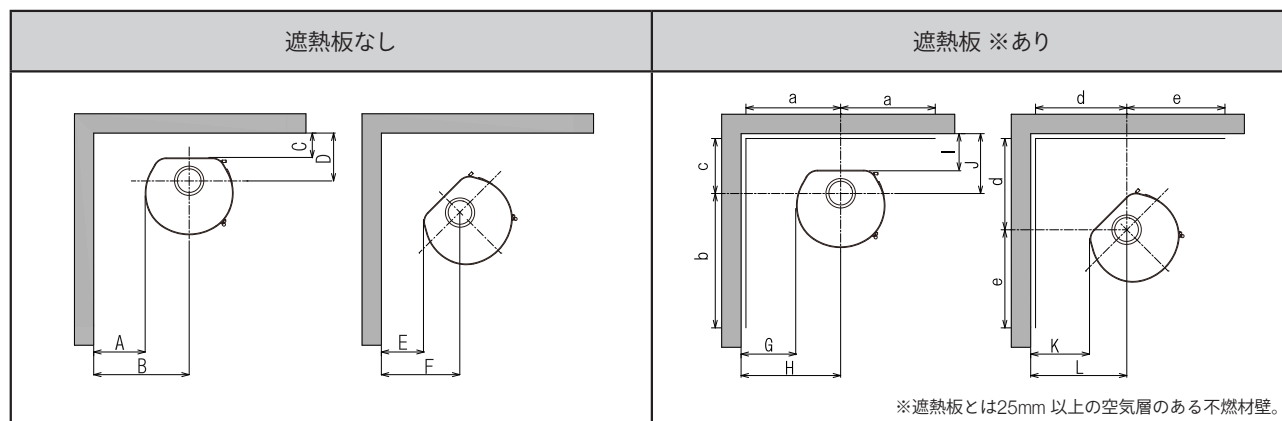
指示

ストーブから周囲の壁、天井、柱など可燃物までは、ストーブを設置する部屋などの仕上げと遮熱板による可燃物の保護に応じて、安全な離隔距離を確保してください。火災の原因になります。

内装制限の技術的基準に従う場合

ストーブを設置する火気使用室の仕上げは建築基準法に定められた内装制限の技術的基準に従い、壁、および天井（天井のない場合においては屋根）の室内に面する部分を、準不燃材料で仕上げてください。その上で、25mmのスペースによる空気の対流層がある不燃材料で作られた遮熱板の有無により、それぞれの離隔距離を確保してください。

ストーブ側面・背面から可燃物までの離隔距離



(単位:mm)

遮熱板なし						
離隔距離						
モデル名	A	B	C	D	E	F
ノルン オープン	300	552	200	342	200	423
ノルン ソープストーン +オープン	300	585	200	348	200	436

遮熱板※あり						
離隔距離						
モデル名	G	H	I	J	K	L
ノルン オープン	150	402	150	292	150	373
ノルン ソープストーン +オープン	150	435	150	298	150	386
遮熱板の幅						
モデル名	a	b	c	d	e	
ノルン オープン	377	751	267	348	435	
ノルン ソープストーン +オープン	410	775	273	361	463	
遮熱板の高さ						
モデル名	a	b	c	d	e	
ノルン オープン	1298 （下部空気層 25 含む）					
ノルン ソープストーン +オープン	1310 （下部空気層 25 含む）					



警告



ストーブから周囲の可燃物まで安全な距離を離す

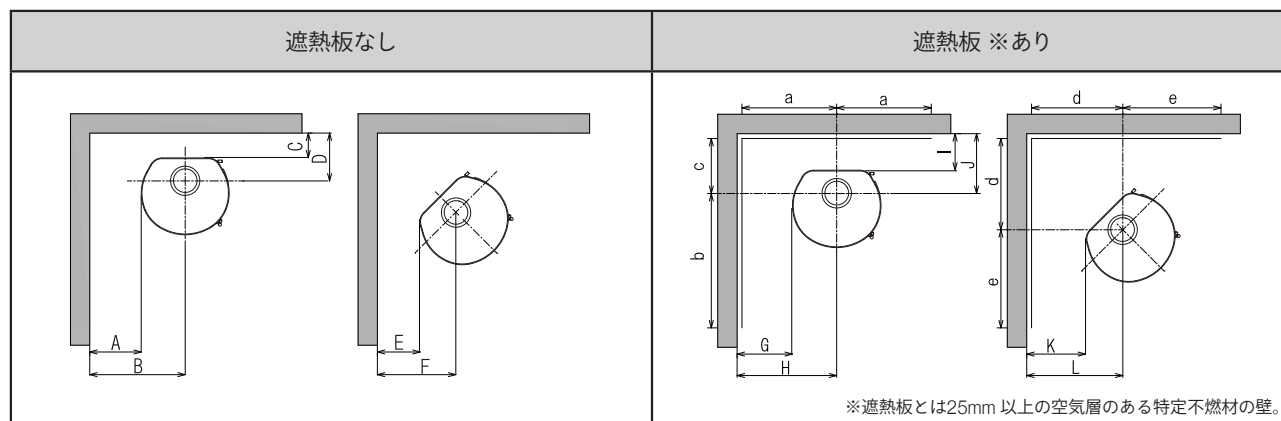
指示

ストーブから周囲の壁、天井、柱など可燃物までは、ストーブを設置する部屋などの仕上げと遮熱板による可燃物の保護に応じて、安全な離隔距離を確保してください。火災の原因になります。

国土交通省告示第225号に従う場合(内装制限の緩和措置)

内装制限の準不燃材料による仕上げに準ずる仕上げとして、ストーブによる熱の影響範囲(可燃物燃焼部分)に内装の仕上げ、および下地がかからないように離隔距離を確保してください。もしくはかかる範囲の内装仕上げ、および下地を、25mmのスペースによる空気の対流層がある、特定不燃材料で作られた遮熱板で保護し、必要な離隔距離を確保してください。告示第225号に従えば、熱の影響範囲にかからない部分の内装仕上げに木材を使うことができます。

ストーブ側面・背面から可燃物までの離隔距離



(単位:mm)

遮熱板なし						
離隔距離						
モデル名	A	B	C	D	E	F
ノルン オープン	1194	1446	1239	1381	1239	1462
ノルン ソープストーン +オープン	1235	1520	1321	1469	1321	1557

遮熱板※あり						
離隔距離						
モデル名	G	H	I	J	K	L
ノルン オープン	398	650	413	555	413	636
ノルン ソープストーン +オープン	412	697	441	589	441	677
遮熱板の幅						
モデル名	※ a	b	c	d	e	
ノルン オープン	1350	2055	530	611	1374	
ノルン ソープストーン +オープン	1450	2191	564	652	1438	
遮熱板の高さ						
モデル名	a	b	c	d	e	
ノルン オープン	1850					
ノルン ソープストーン +オープン	1912					

※ a は側方に遮熱壁がある場合には H - 25mm

安全のために



煙突から周囲の可燃物まで安全な距離を離す

指示

煙突から可燃物の間は図3に定められた火災予防上安全な離隔距離を設けてください。

特に貫通部は建築基準法に規定されていますので、図4 貫通部の詳細図のように囲い枠を設け、枠内は金属以外の不燃材料で防火上有効な処理をしてください。

離隔距離が不足すると火災の原因になります。

図3 煙突から可燃物までの離隔距離

(単位:mm)

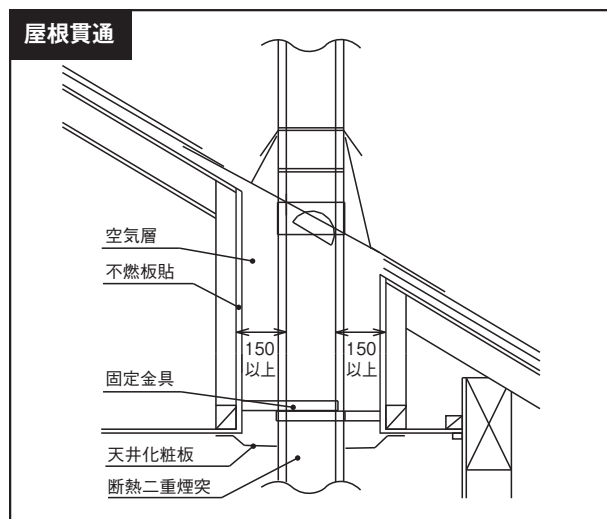
	開放空間	小屋裏・天井裏・床裏などの貫通	壁を貫通	天井
シングル煙突	 ※壁に25mmの空気層を設けた遮熱板を使用した場合、230mmまで離隔距離を削減することができます。	 使用禁止	 使用禁止	 460以上
煙突ヒートシールド + シングル煙突	 230以上 460以上	 使用禁止	 使用禁止	 使用禁止
断熱二重煙突	 150以上	 150以上 囲い枠	 不燃板 めがね石 100mm以上	 150以上
断熱二重煙突 (自在管)	 300以上	 使用禁止	 使用禁止	 300以上

※ シングル煙突にはスターターも含まれます。

※ 貫通部は断熱二重煙突を使用してください。

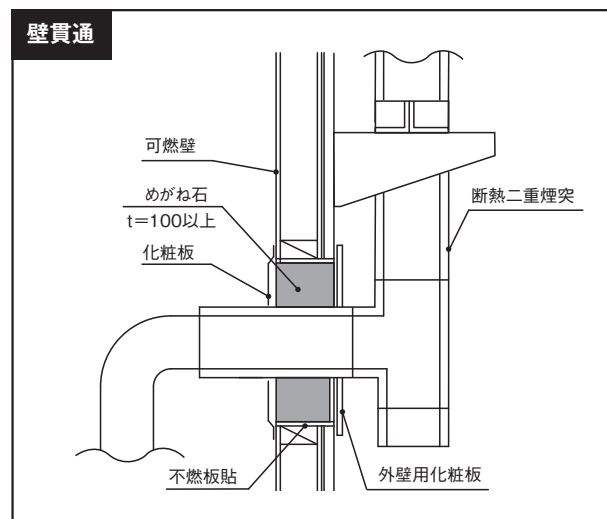
図4 煙突貫通部詳細図

(単位:mm)



※ 煙突が小屋裏、天井裏、および床裏などを貫通する部分は、断熱二重煙突の内側煙突より150mm以上の離隔を設け、防火上有効に被覆を行った囲い枠内を貫通させてください。

(単位:mm)



※ 煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は必ずめがね石を使用し、めがね石の中に煙突の接続部を設置しないようにしてください。



指示

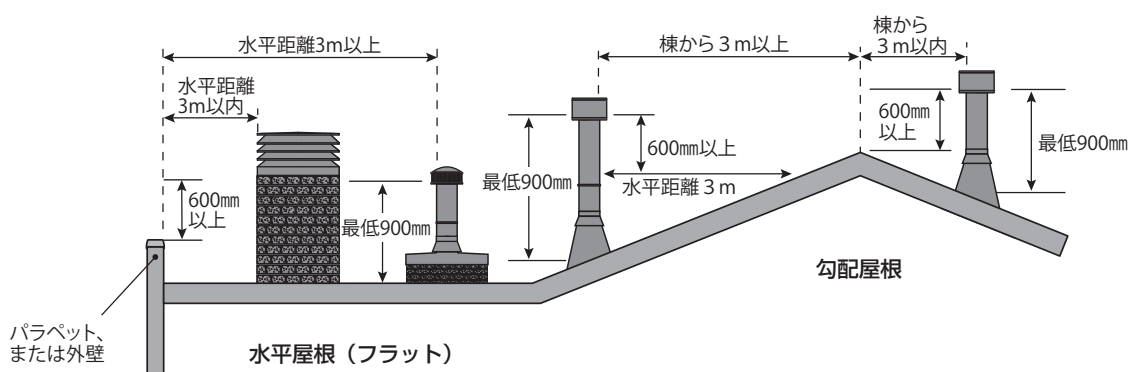
屋根から煙突の高さを設ける

煙突頂部の推奨

風向と屋根の形状から発生する風圧帯により、煙突頂部から逆流をおよぼす影響の防止策、また煙突火災時の燃焼防止として、弊社では米国防火協会（NFPA211）の基準を推奨します。

煙突頂部の推奨距離

煙突の高さは、屋根面から立ち上がる長さを90cm以上とし、その先端からの水平距離3m以内に建築物や障害物がある場合は、その建築物や障害物から60cm以上高くしてください。



建築基準法

- ・ 煙突の屋根上突出部は、屋根面からの垂直距離を60cm以上とすること。
- ・ 煙突の高さは、その先端からの水平距離1m以内に建築物がある場合で、その建築物に軒がある場合においては、その建築物の軒から60cm以上高くすること。

安全のために



指示

煙突を確実に接続

煙突は容易に外れないよう強固に接続し、かつ排気漏れがないよう接続してください。
煙が屋内に漏れると健康に害をおよぼす他、火災の原因になります。

2 開梱

開梱の際の注意

お使いになる前に、製品の輸送中に生じたネジのゆるみや、外れなどが無いかを調べてください。

梱包材は取り除いた後、適切に処分してください。

付属品の確認

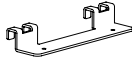
付属品の内容を確認し、取付け方法に従い確実に取付けてください。

お願い 付属品に不備がありましたら、お手数ですが弊社までご連絡ください。

本体付属品

名称	数量
工事説明書(本書)	1
取扱説明書	1
保証書	1
お引渡し時確認書	1
薪ストーブを安全にご使用いただくために	1
あんしん点検のご案内、兼 所有者登録ハガキ	1
個人情報保護シール	1
パーツリスト	1
オープン温度計	1
グローブ(片手)	1
オープングリル	1
T20トルクス L型レンチ	1
着火剤	1

備品一覧

名称	数量
スターター	1
スターターリング	1
スターター用 フランジボルト	2
レッグレベラー	4
ファイバーロープ 53cm(口元用)	1
地震対策用固定穴位置テンプレート	1
地震対策ブラケット 	1

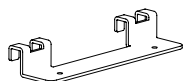
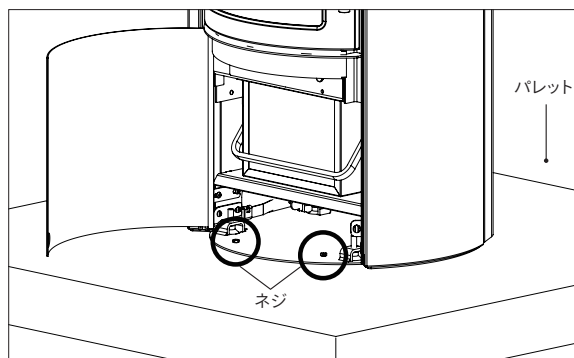
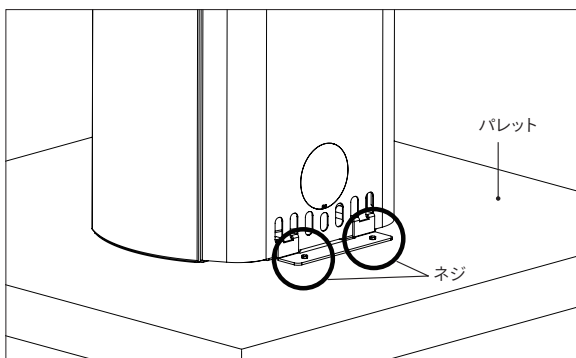
オプション

名称	品番
フロアプロテクター(ノルン用)	89967
フロアプロテクター(ノルン soapstone用)	89981
給気用ダクト(ステンレス管仕様・90°R曲)	18375
給気用ダクト(ステンレス管仕様・直筒)	18619
ベーキングトレイ	50304

※フロアプロテクターのヘアラインは特注品。

パレットの外し方

搬送時、パレットに固定していたネジ(3箇所)を外します。外したネジは不要です。地震対策には使用しないでください。



←本体背面下部に取付けられていた固定金具は、地震対策ブラケットとして使用します(地震対策：P16、17)。

3 ストープの移動方法

梱包を解いたストーブを移動する際には、破損しやすい炉内のバーミキュライト製のパネルや、外れやすい天板や重量のあるソーブストーンをあらかじめ取り外してから行ってください。

作業するにあたり

- 作業は必ず2人以上で行ってください。
- 作業時はすべり止めの付いた手袋を着用してください。

燃焼室の各パネルを外す(各機種共)

炉内の4枚のパネル、およびオープン内のオープングリルを外します。

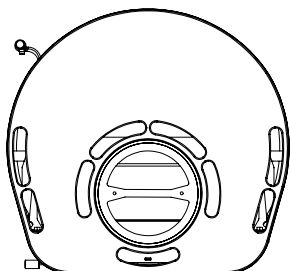
パネルの取り外し方法 …… 取扱説明書 P37「●パネルの分解・組み立て手順」をご覧ください。

スチール仕様の天板の脱着 (#5210 ノルン オープンのみ)

鑄造製天板の落下による製品の破損を防止するため、運搬時は本体から天板を外して行い、取り外した天板は、緩衝材などで養生をし、取扱いには十分ご注意ください。

天板の脱着……天板を垂直に持ち上げ外します。

天板の取付け



天板の煙突開口に煙突を接続する際、周囲の隙間が均等になるように、円の中心を合わせてください。

ソーブストーン仕様の各ソーブストーン脱着 (#5218 ノルン ソーブストーン+オープンのみ)

- ソーブストーンの落下・接触等による破損を防止するため、運搬時は本体からソーブストーンを外して行い、取り外したソーブストーンは、緩衝材などで養生をし、取扱いには十分ご注意ください。
- ソーブストーンの脱着は、P10の手順に従って外してください。

各ソープストーンの脱着方法

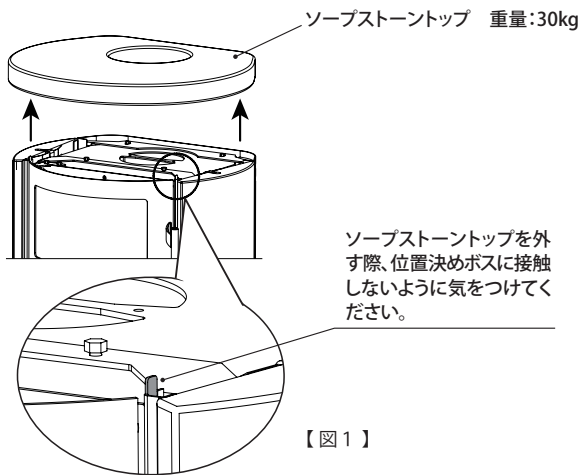
●ソープストーンの外し方

- 1

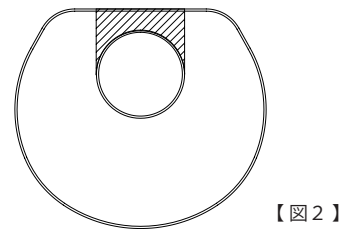
ストーブ側面の床を保護材などで養生する

ソープストーンサイドを取り外す際、床へのキズ予防、およびソープストーンのカケ防止のため、毛布などで床を保護します。
- 2

ソープストーントップを垂直に上げ、外す



注意 図2の斜線部分を持たないでください。破損するおそれがあります。

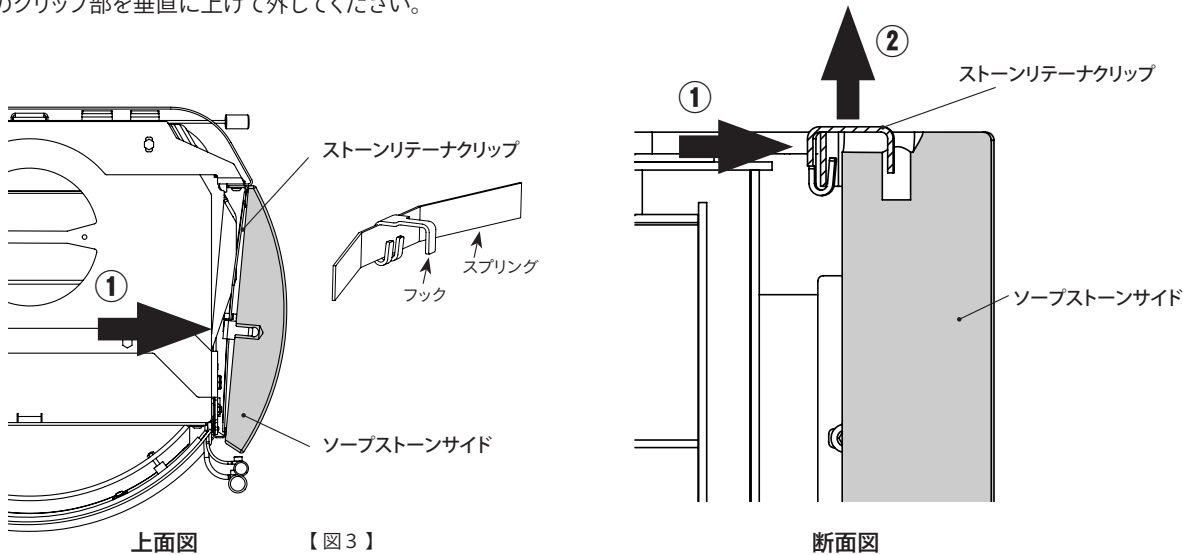


- 3

ソープストーンサイドを固定している上部のストーンリテーナクリップを本体から外す

ストーンリテーナクリップを外した後、ソープストーンサイドが倒れないように、支えながら作業を行ってください。

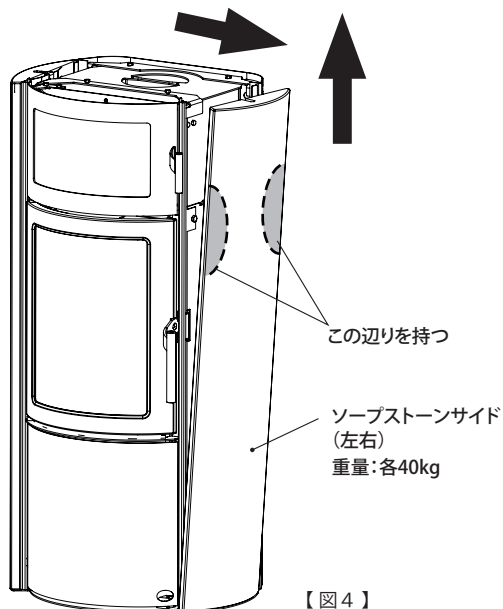
ストーンリテーナクリップは図3のように矢印方向①から3mm程押しながら、②のクリップ部を垂直に上げて外してください。



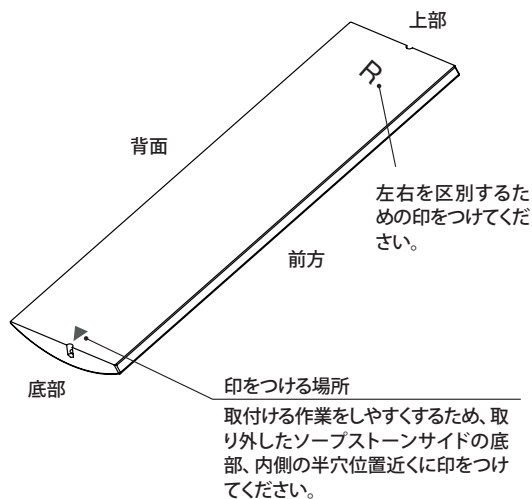
4

ソープストーンサイドの上部を本体から4 cm程傾けた後、矢印の方向に上げながら外す【図4】

- ・傾けすぎによるソープストーンのカケ、底部のストーンリテーナクリップが曲がらないようにご注意ください。
- ・ソープストーンサイドは、図4のマークの辺りをお持ちください。



ソープストーンサイドの形状



【図5】

ソープストーンサイドは左右石目のバランスを考え組み上げています。

バランスを崩さないよう左右の区別を解りやすくするために、内側に左右の印をつけてください。【図5】

ソープストーンサイドスペーサーについて

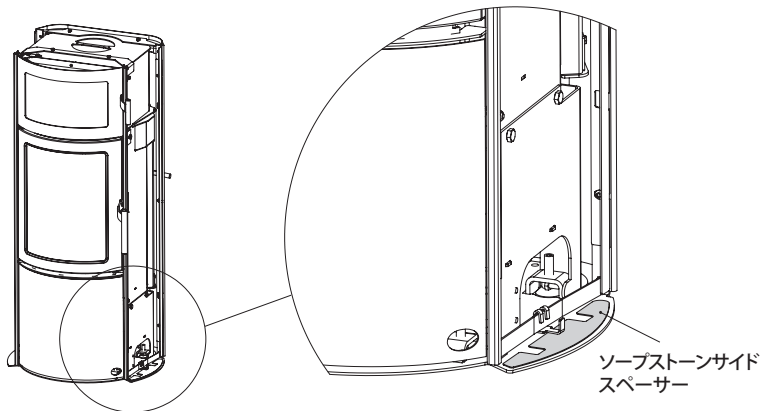
ソープストーンサイドは天然素材のため、若干の差異があります。

そのため、製造時にソープストーンサイドスペーサーを入れて微調整しています。

ソープストーンサイドを外した時にスペーサーがある場合には、そのまま使用してください(P12)。

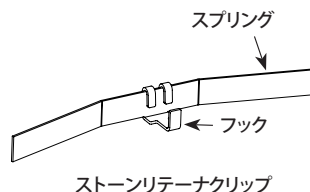
注意

ソープストーンサイドスペーサーは本体に固定されていません。移動の際には紛失しないようご注意ください。



5

下部のストーンリテーナクリップは、スプリングの片側を垂直に上げてフレームから外す



6

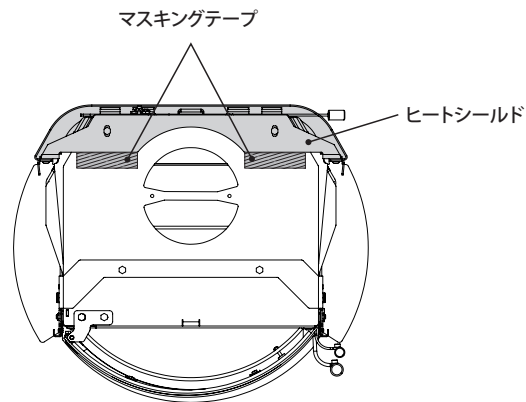
反対側も 3～5 と同じ作業を行う

※次ページに続きあり

7 ヒートシールドの取付け位置に印をつける

ソープストーンサイドを外してから、ヒートシールドの取付け位置をマスキングテープで印をつけておきます。

この印は、ソープストーンサイドを取付ける際(P12 2)、ヒートシールドにズレがないか確認するためです。



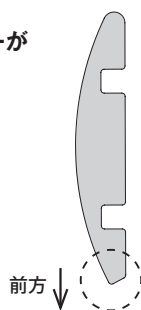
●ソープストーンを取付け方

1 ストーブの側面の床を保護材などで養生する

ソープストーンサイドを取付ける際、床へのキズ予防、およびソープストーンのカケ防止のため、毛布などで床を保護します。

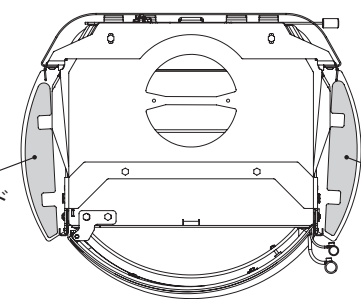
ソープストーンサイドスペーサーが 設置されていた場合

ソープストーンスペーサーを
図のようにして、本体のボト
ムに置きます。



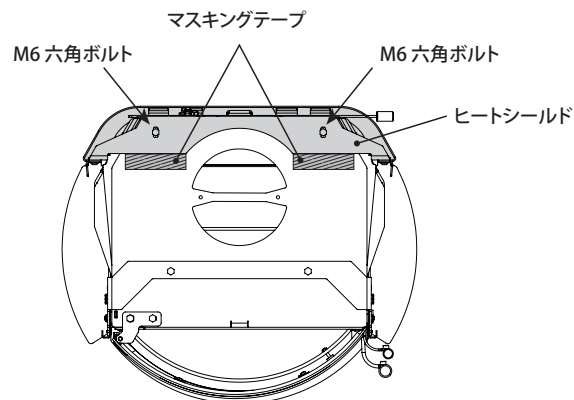
ソープストーンサイド
スペーサー

ソープストーンサイド
スペーサー



2 ヒートシールドがズれていないか確認する

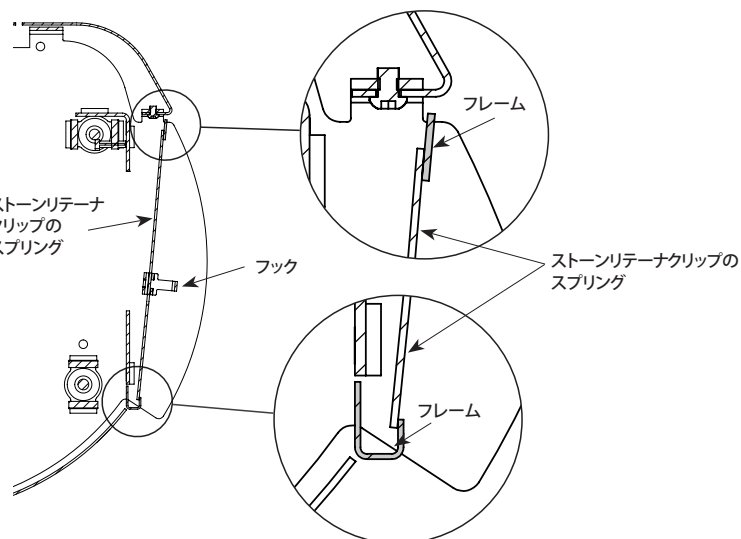
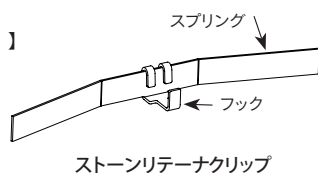
ソープストーンサイドを取付ける際、ヒートシールドがマスキングテープの場所からズれていないか確認します。ズれている場合には、図のようにM6六角ボルトをゆるめて修正します。



3 底部のストーンリテーナクリップを取付ける

ストーンリテーナクリップのフック部分が上を向くようにして【図6】、スプリングをフレームの内側に取付けます。スプリングの両端がフレームにかかっていることを確認してください。

【図6】

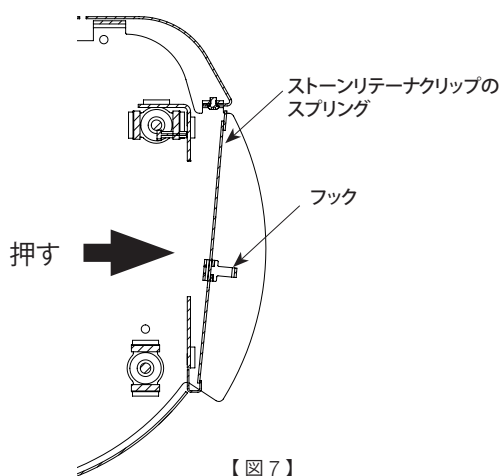


4

フックの位置に合わせ、ソープストーンサイドを取付ける

ソープストーンサイドの向きを確認して、本体に取付けます。

3 でストーブ本体に取付けたストーンリテーナクリップのフック部分をストーブ内側から押し、スプリングが真っ直ぐになるようにしながら【図7】、ソープストーンサイドを4cm程傾けつつフックに取付けます。【図9】



【図7】

【図8】

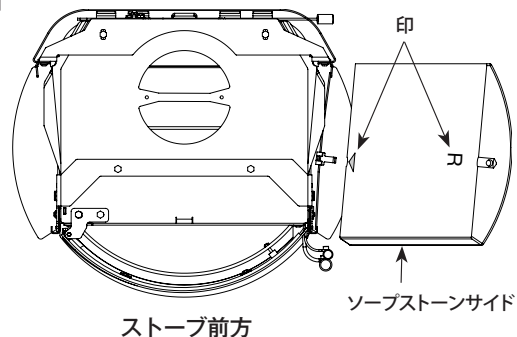
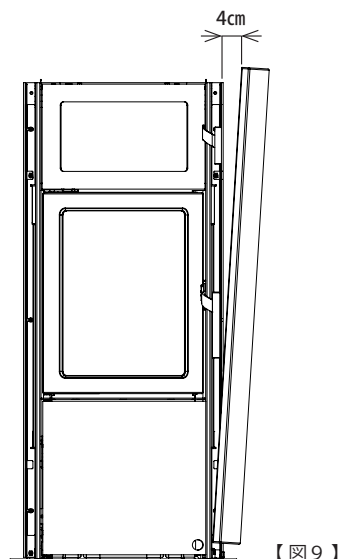


図8のように、ストーブ側面にソープストーンサイドを置き、先に付けたソープストーンサイド底部内側の印に、ストーンリテーナクリップのフックを合わせます。

注意 ソープストーンサイドの欠け、ストーンリテーナクリップのフックの変形などにご注意ください。

ソープストーンサイドがストーンリテーナクリップのフックに入ったことを確認したら、垂直に立てます。



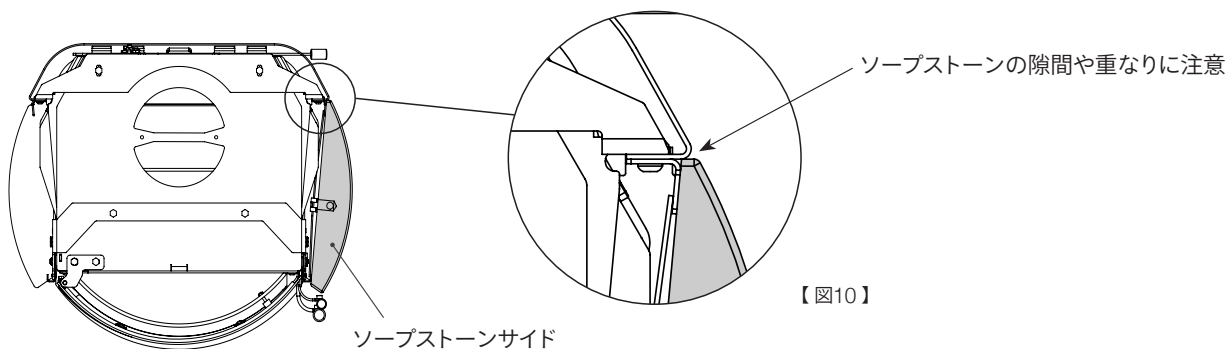
【図9】

5

ソープストーンサイドの位置を確認する

ソープストーンサイドを側面に取付けた際、フレームとソープストーンの間隙や重なりがあってはいけません。【図10】

隙間がある場合は、3 に戻り作業を行ってください。



【図10】

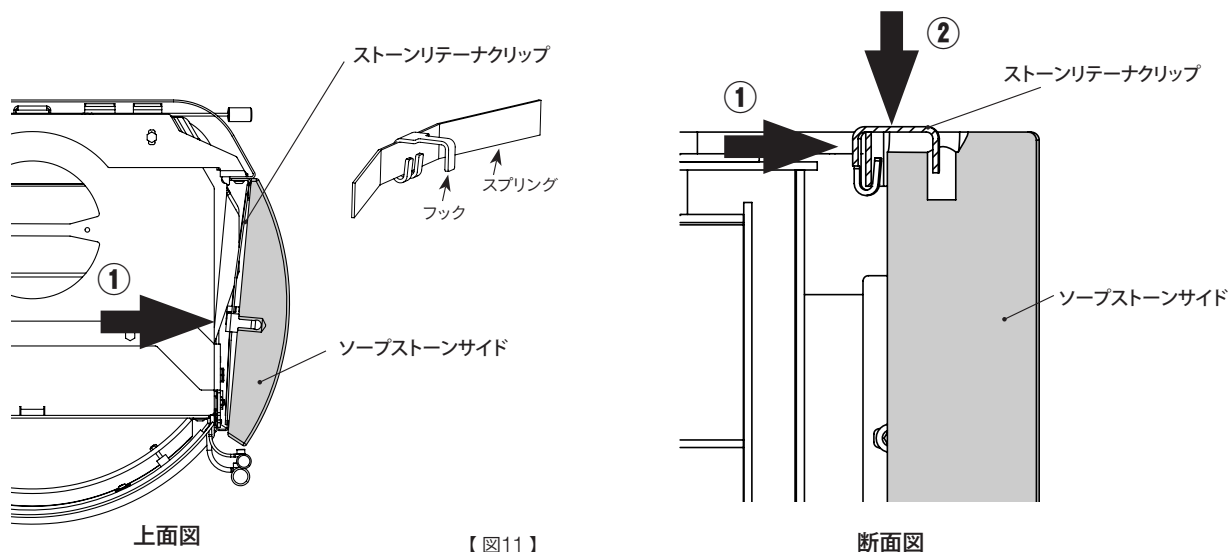
6

ソープストーンサイド上部にストーンリテーナクリップを取付ける

ソープストーンサイドが倒れないように、支えながら上部ストーンリテーナクリップを取付けます。

フック部分が下に向くようにして、スプリングをフレームの内側に取付けます。

この時、図11の矢印方向①に3mm程押しながらソープストーンサイドの穴にストーンリテーナクリップの(矢印方向②)フックを入れます。



【図11】

7

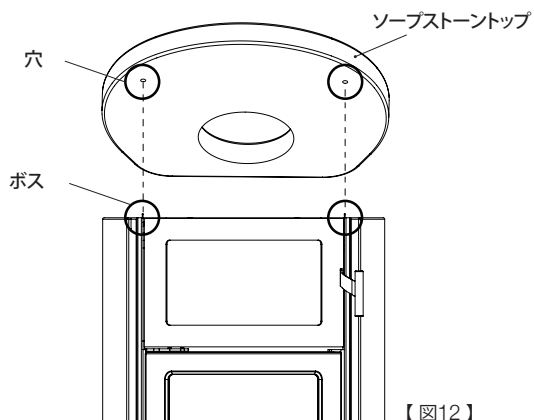
反対側のソープストーンサイドも 1～6の順で取付ける

8

ソープストーントップを取付ける

本体の位置決め用のボスにソープストーントップの2つの穴が入るようにセットしてください。【図12】

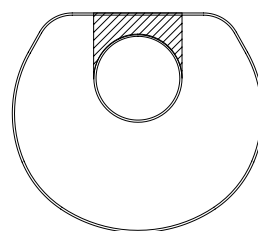
図13の斜線部分はソープストーントップで破損しやすい部分です。取付け時にここを持たないようにご注意ください。



【図12】

注意

図13の斜線部分を持たないでください。
破損するおそれがあります。



【図13】

作業終了後、ソープストーン表面を固く絞った濡れ布巾で拭いてください。

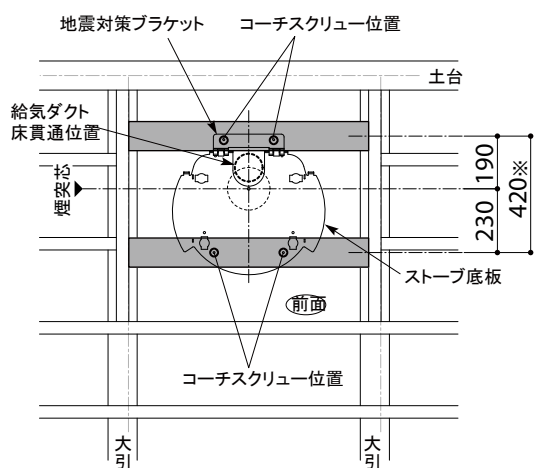
4 本体の設置

施工上の注意事項

1. ストープ本体、および炉台の荷重を充分受けられる床構造としてください。
2. 木造の下地合板は12mm以上の構造用合板を推奨します。
コンクリートスラブをストープ底面付近まで立ち上げる場合は必ず基礎断熱を施し、結露防止を図ってください。
3. 地震対策のためコーチスクリューを打ち込めるように下図を参考に追加補強材、または裏当て材を施工してください。

根太・大引構造(12mm下地合板)の場合

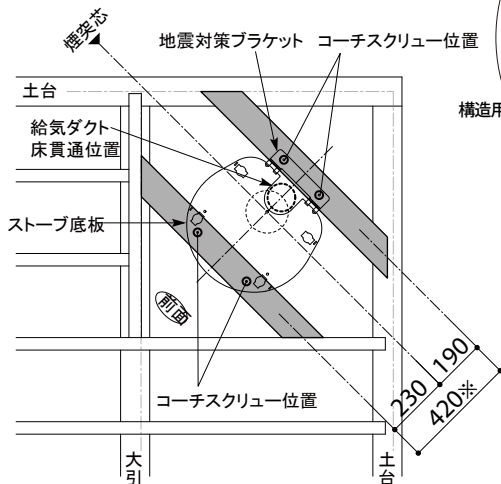
構造合板等の下地合板だけではコーチスクリューの保持力が不足します。
地震対策ブラケット、および本体固定位置に追加で補強材を入れてください。



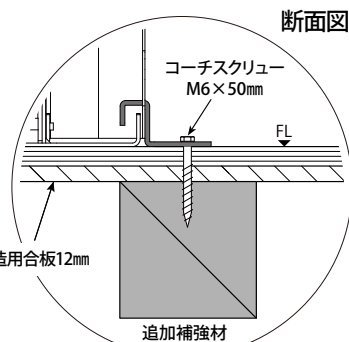
正面設置

■ 追加補強材

※追加補強材間の芯寸法

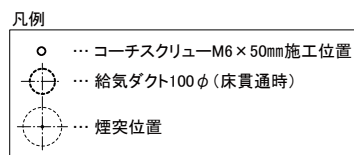


45°設置



断面図

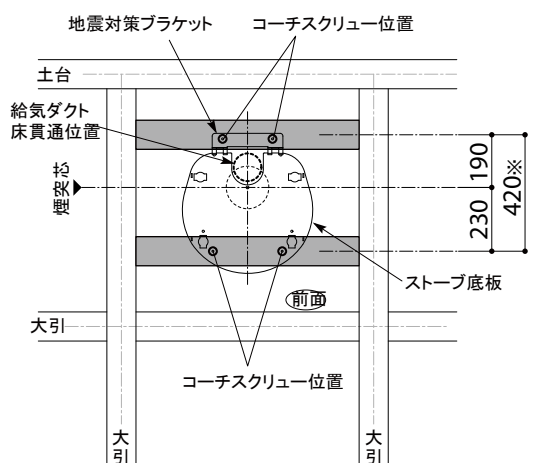
大引材または火打材を追加補強材として施工すること。



本体の設置

剛床構造(24mm以上の構造用合板下地)の場合

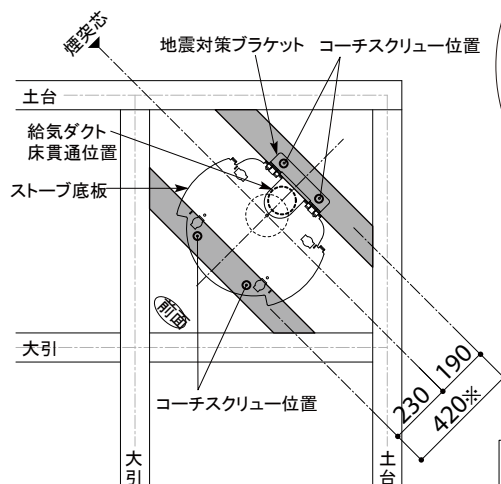
コーチスクリュー施工箇所へ裏当て材を入れてください。



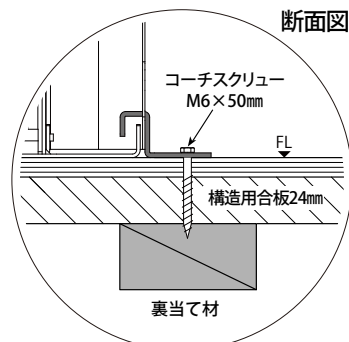
正面設置

■ 裏当て材

※裏当て材間の芯寸法

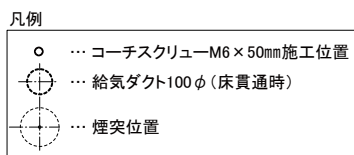


45°設置



断面図

2×4材程度の材を裏当て材として施工すること。



※上記の床構造を確保できない場合は施工業者が同等の構造補強を必ず行ってください。

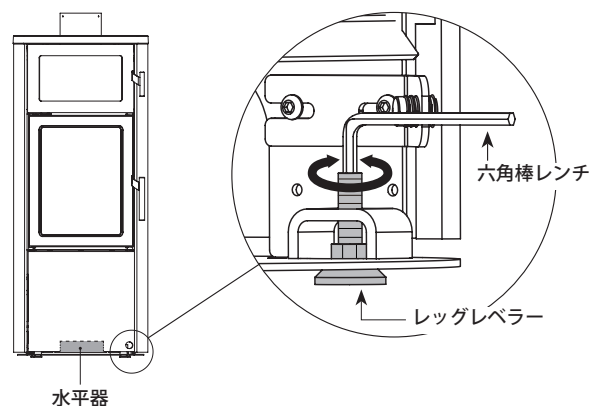
※上記床補強はストープ設置前工事です。ストープ据付後に地震対策ブラケット取付作業が必要です。

ストーブの水平調整

ストーブが水平になるよう、水平器を使用してレッグレベラーで調整してください。

水平器はボトムを中心に置いて確認します。

必要工具
5mm六角棒レンチ



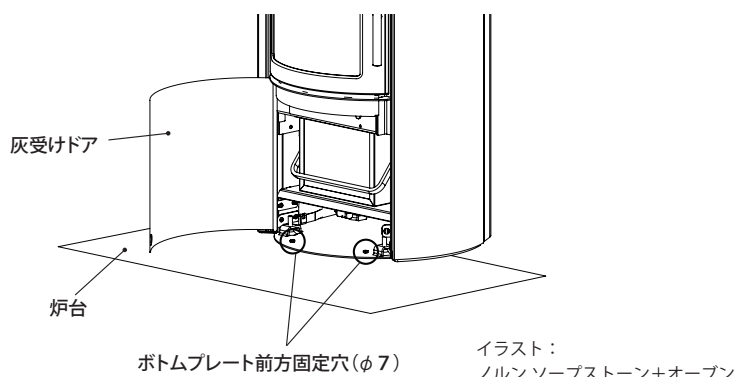
ストーブの地震対策

地震時の転倒対策として以下の説明に従い、床にストーブを固定してください。

ストーブは前 1 箇所、後 2 箇所固定します。固定用にはコーチスクリューボルト (M6 × 50mm) を 4 本ご使用ください。

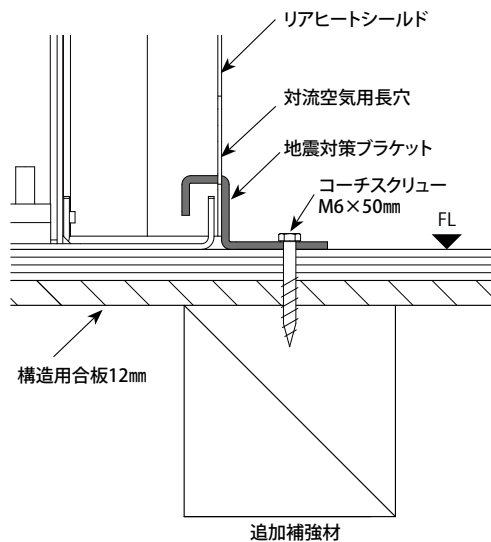
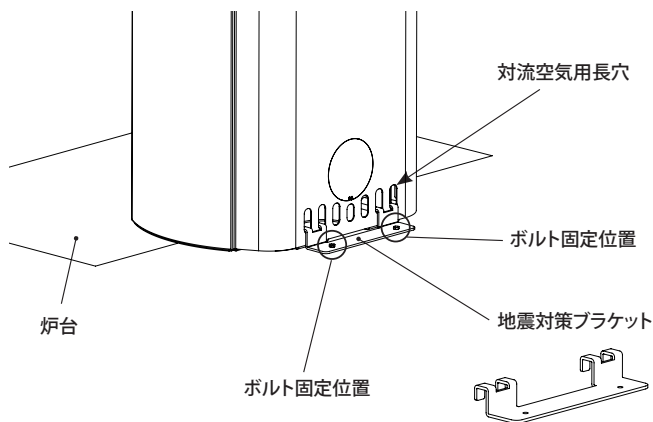
前方の固定

灰受けドア内のボトムプレート前方の穴 (φ7) にコーチスクリューを使い床に固定します。



後方の固定

ストーブ背面のリアヒートシールド下部に開口している対流空気用長穴に、図のように付属の地震対策ブラケットを引っ掛けコーチスクリューボルト 2 本を使用し床に固定します。



地震対策ブラケット取付断面図

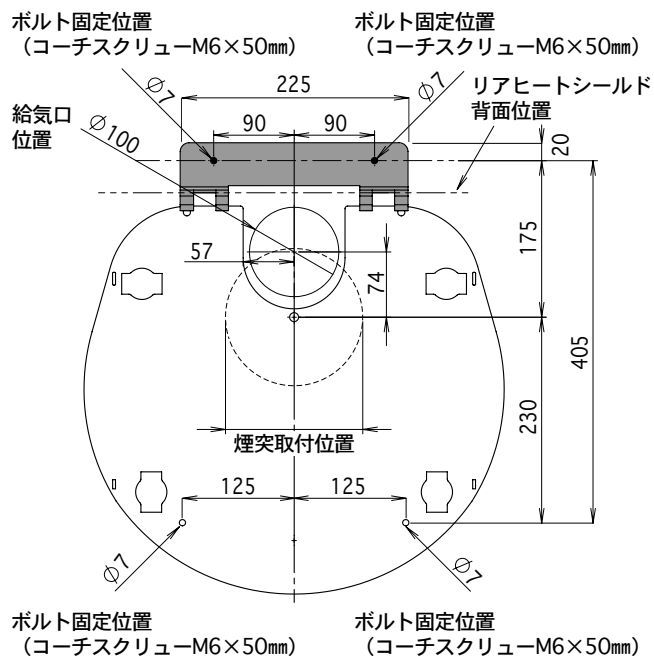
リアヒートシールドの下部にある、対流空気用長穴に爪の先端を入れ、図のように地震対策ブラケットをリアヒートシールドに密着させて固定します。
床の補強材までコーチスクリューにて確実に固定してください。

注意① … 下穴を開けずにコーチスクリューを打ち込むと補強材が割れるおそれがあります。
コーチスクリューを打ち込む前に必ずφ3mm程度の下穴を開けてから施工してください。

注意② … タイルや石貼り仕上げの床にコーチスクリューを打ち込む場合、トルクが強すぎると割れるおそれがあるのでインパクトの使用は避け手締めし、トルクの掛かり過ぎに注意して施工してください。

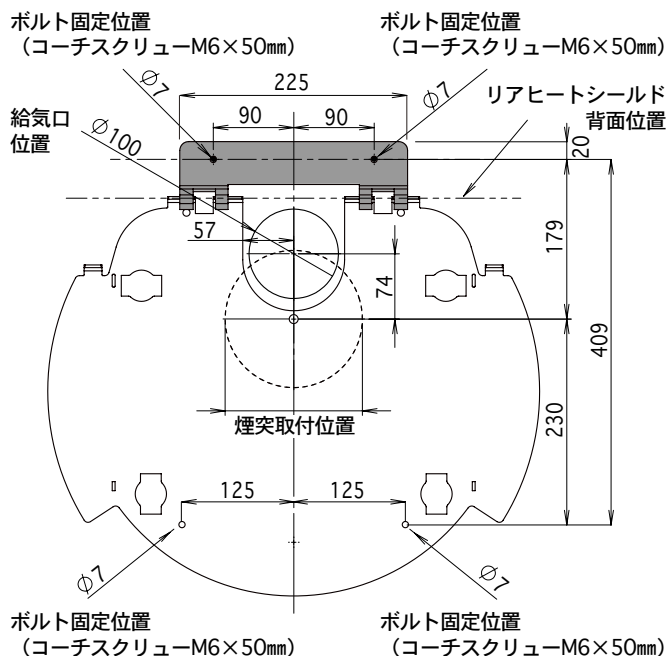
固定用穴位置図（底板上面図）

※施工の際はストーブの穴位置を示した付属のテンプレートをご利用ください



【ノルンオープン】

地震対策ブラケット



【ノルン ソープストーン+オープン】



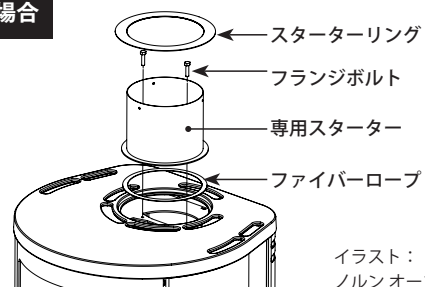
指示

ストーブにスターを固定する

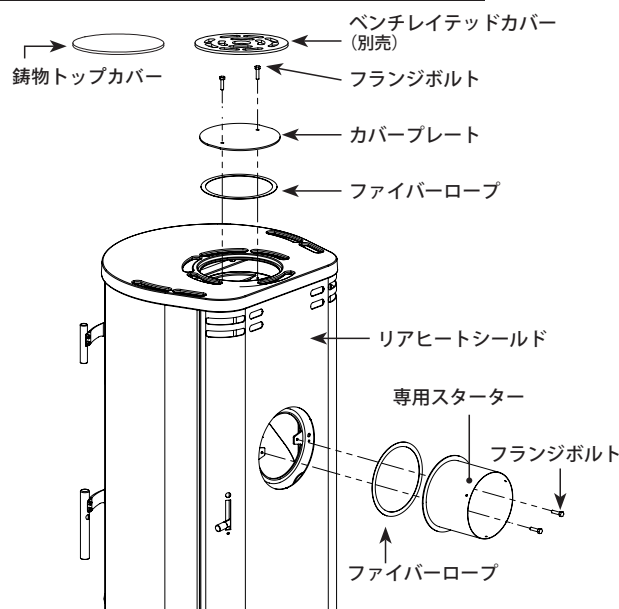
煙突に接続するために、付属のスターをイラストのように取付けます。

排気漏れがないよう、隙間なく取付けてください。

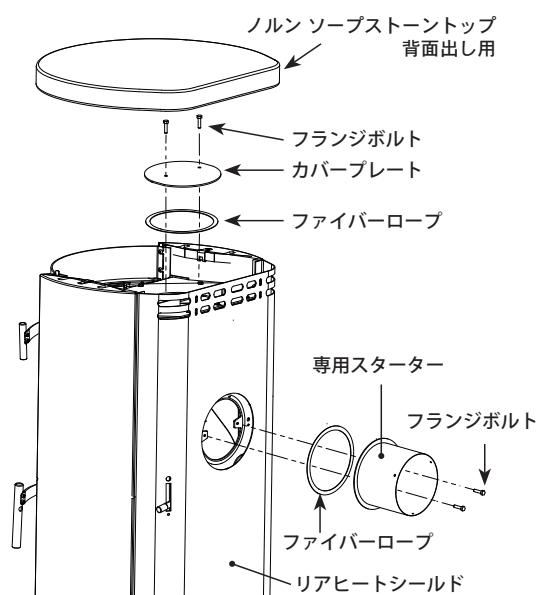
垂直接続の場合



水平接続(ノルン オープン)の場合



水平接続(ノルンソープストーン+オープン)の場合



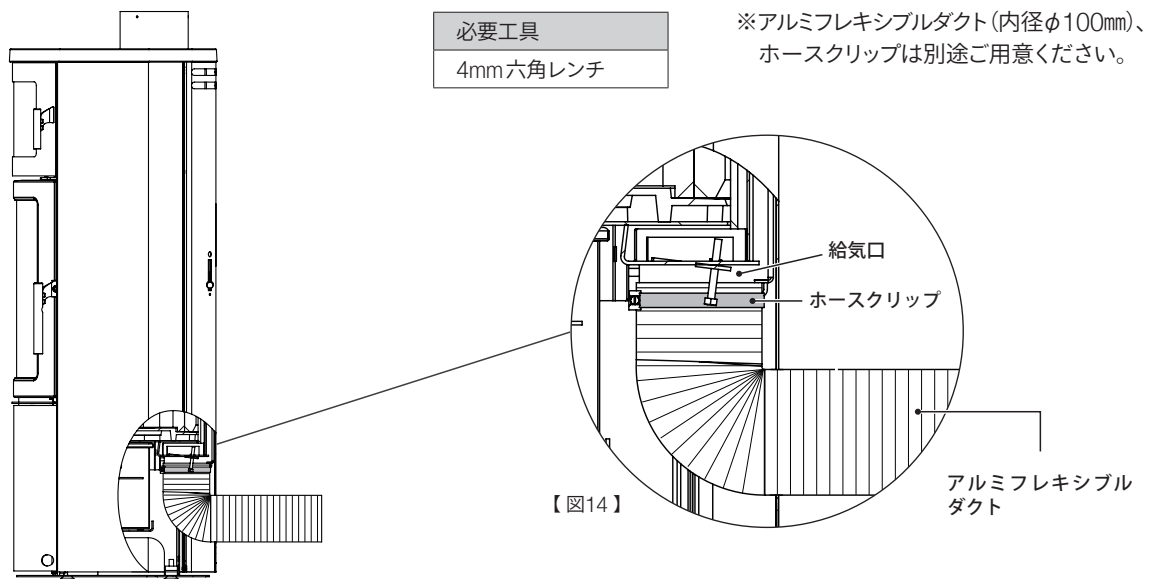
- 水平接続**
- ・リアヒートシールド上部のノックアウト穴を開いたのち接続します。
 - ・トップを塞ぐカバープレートは、背面に接続していたものをそのまま使用します。

給気用ダクトの取付け方法

外気を直接本体に取り入れる場合、給気用ダクト（金属等不燃材製）を以下の方法で接続してください。
壁または床にはあらかじめ開口を設けておいてください。ダクトは外気を供給できる場所まで延長してください。
給気用ダクト等は付属しておりません。

壁を貫通する場合の接続

- 1 本体背面下部にあるノックアウト穴を開口します。
- 2 内径φ100mmのアルミフレキシブルダクトの端部を図14のように、あらかじめ曲げておきます。
- 3 本体下部ドアの奥に位置する給気口に、ノックアウト穴からアルミフレキシブルダクトを通し接続します。
- 4 アルミフレキシブルダクトを3 cm以上差し込み、ホースクリップで固定します。【図14】



床を貫通する場合の接続

- 1 あらかじめ、床貫通位置にφ100のアルミフレキシブルダクトが通るφ110程度の開口を開け、ストーブを炉台、および床の開口に本体底面開口部を合わせ設置します。
- 2 給気口に、内径φ100mmのアルミフレキシブルダクトを3 cm以上差し込み、ホースクリップで固定します。【図14】

ダクトは壁、床いずれの場合も外気に面したところまで延長させます。

5 煙突の設置 ⚙️ ⚙️

煙突の仕様

● シングル煙突

材質は厚み0.6mm以上のステンレス製、もしくは鉄製で、継目は溶接、またはハゼ組みのものを使用してください。

シングル煙突の長さの目安

室内に使用するシングル煙突の長さは、建物の断熱性能を考慮した上で、本体より最長2.4mまでを目安としてください。

● 断熱二重煙突

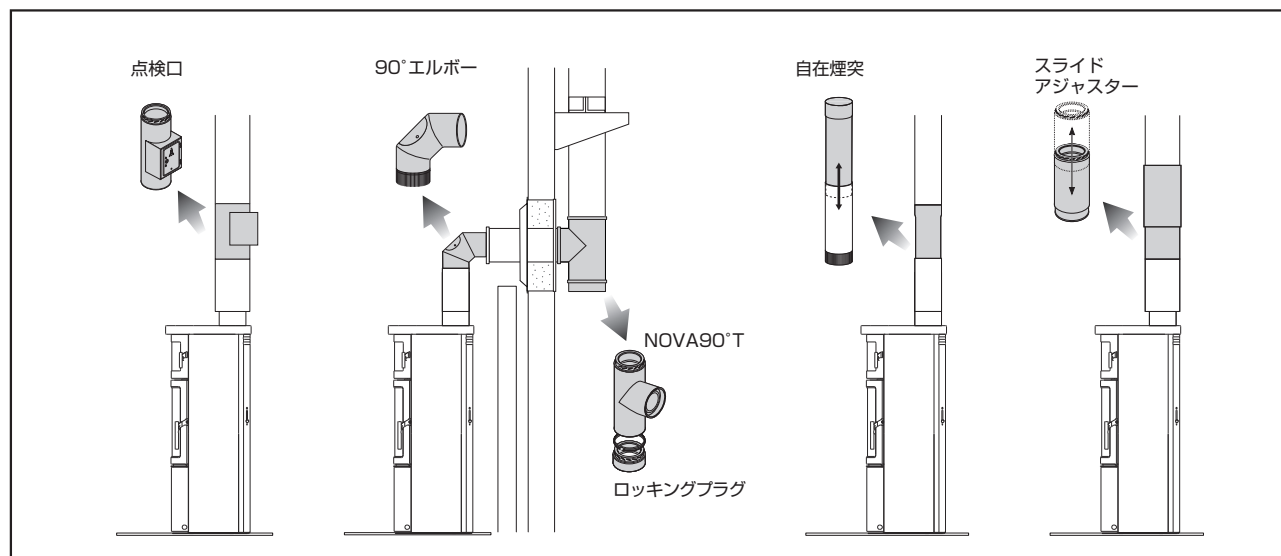
衝撃テスト認定品 (UL103 "Type HT" もしくは BS EN 1856-1 T400 以上)、もしくは同等の断熱性能を有するものであって、材質がSUS304以上の耐酸性、耐食性のある断熱二重煙突を使用してください。

煙突の立ち上がり・曲がり・横引きの目安

- ・ 煙突は排気抵抗を考慮し、できるだけストレートに設置してください。
- ・ 立ち上がりは本体接続部から4m以上必要です。
- ・ 曲がりの箇所は4箇所までとし、角度の合計は270°以内を目安としてください。
- ・ 横引きの長さは500mm以内を目安としてください。

煙突の点検口

点検口は点検、メンテナンスが行いやすく、かつ容易に近づくことができる場所に設けてください。



煙突の支持

- ・ 支持具を固定する際は建築物の構造、取付け面の仕上げ、煙突重量、および気象条件等の外力を考慮し、必要に応じて建築工事による下地補強を行い、確実に固定してください。
- ・ システム全体で必ず1箇所以上の煙突荷重受けを断熱二重煙突部分に設置し、かつ振れ止めは3.5m以内の間隔で固定してください。
- ・ 支持部分から煙突頂部までの間は1.5m以内にしてください。
- ・ 支持具は煙突を長期間保持できるように強固に固定し、材質は腐食を考慮しSUS304、または同等の性能にしてください。

荷重受

荷重受用の部材は**M 8 以上のステンレス製六角コーチスクリュー**を**4本以上**にて、建築躯体に固定してください。

振れ止め

振れ止め用の部材は、**屋外にM 8 以上、屋内についてはM 6 以上のステンレス六角コーチスクリュー**を**2本以上**にて、建築躯体に固定してください。

煙突の接続

- ・ 煙突は容易に外れないよう強固に接続し、かつ排気漏れがないように接続してください。
- ・ 他の機器が接続されている煙突には接続しないでください。

煙突の雨仕舞と雪害対策

- ・ 屋外貫通部、および煙突の曲がり部、接続箇所は雨の浸入を十分考慮し、シール材等で防水処理を行ってください。
- ・ 雨仕舞いは一次防水にとどまらず、必ず二次防水の処理を併せて行ってください。
- ・ 積雪地域では雪割りや雪止め等の金具を設け、煙突、および雨仕舞い部材の破損を防止してください。

既存の煙突

既存の煙突にストーブを接続する場合は、原則として1年以上使用した煙突、煙突トップ、固定金具は新品と交換してください。ただし煙突、煙突トップ、固定金具の材質がSUS304、または同等以上の耐酸性、耐食性を有する材質で、穴あき・サビ・亀裂・閉塞・接続部の外れなど、安全に問題がないことが確認された場合は、既存の煙突にストーブを接続することができます。

6 チェックリスト



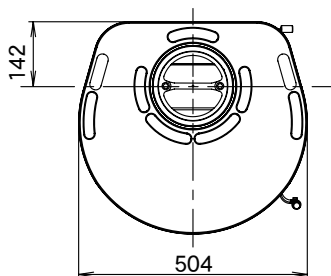
工事終了後、以下の項目に従い、工事内容を再確認してください。

	点検項目	点検内容	チェック
ストーブ、およびその周辺	床の保護	ストーブを設置する床の保護範囲は十分ですか。 また、防火上有効な措置がされていますか。	
	可燃物との離隔距離	ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は十分ですか。	
	換気設備と燃烧空気	燃烧に必要な空気を取り込めますか。換気は行えますか。	
	保守、管理上の空間	点検、修理に必要な空間はありますか。	
	水平・安定設置	ストーブは水平に設置され、がたつきはないですか。 地震時の転倒防止対策として、床に固定されていますか。	
	備品	備品は全て取付けされていますか。	
煙突	可燃物との離隔距離	煙突から周囲の可燃物までの離隔距離は十分ですか。	
	頂部の高さ	煙突の高さは十分ですか。	
	固定、接続	煙突は確実に接続され、堅固に固定金具で固定されていますか。	
	保守、メンテナンス	煙突の保守、メンテナンスが容易に行える設置になっていますか。	

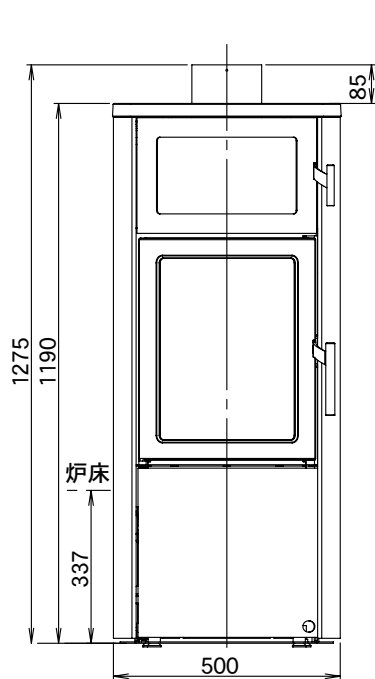
7

NORN oven (単位:mm)

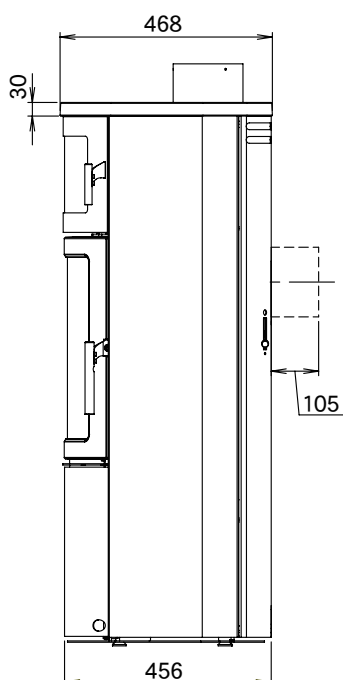
(单位:mm)



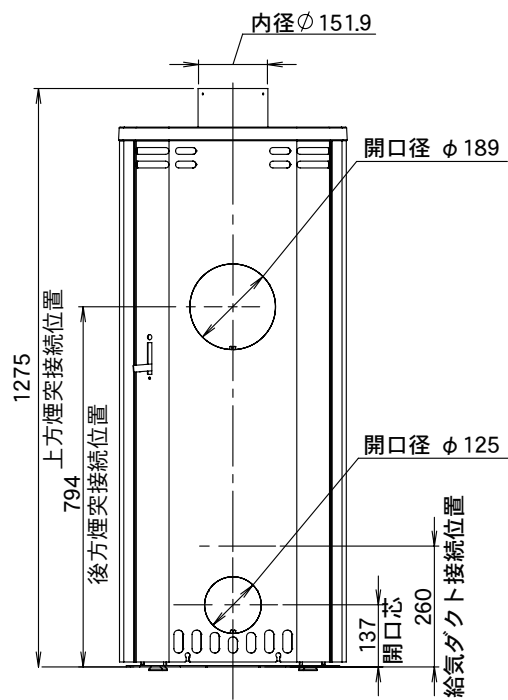
平面図



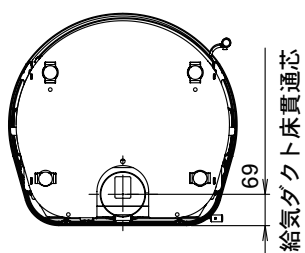
正面図



側面図



背面図



底面図

本体寸法図



ファイヤーサイド株式会社
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂497-871
☎0120-46-7877
<https://www.firesidestove.com>